

2025 年 12 月号

INVEST IN TÜRKİYE

# FDI AGENDA



## 投資・財務局からのメッセージ

11 月は、トルコが外交、技術、投資が複数の地域や分野にわたって交わる世界の要衝としての役割をますます高めていることを改めて浮き彫りにしました。

レジェプ・タイイップ・エルドアン大統領は、ヨハネスブルクで開催された G20 首脳会議に出席しました。会議では、世界経済の見通し、貿易、開発、保健、エネルギー、気候変動に関する課題について議論が行われま

した。トルコはまた、地域問題に関する対話を推進し、2026 年にアンタルヤで誇りをもって開催する COP31 の準備を継続しました。

トルコのデジタルエコシステムは、トルクセルと Google Cloud が国内初のハイパースケール地域データセンターの設立に関する合意書に調印したことで、歴史的な節目を迎えました。これによりトルコは Google Cloud の 42 のグローバルリージョンの一つとして位置づけられ、クラウドサービスと先進的なデジタルインフラにおける競争力を高めることとなりました。

国際的な連携強化の一環として、フランス対外貿易諮問委員会（CCE）トルコ委員会は、2020 年から 2024 年にかけてトルコにおけるフランス企業および仏トルコ共同事業の経済的・社会的貢献に関する最新報告書を発表いたしました。調査結果は、フランス系投資家の戦略的な存在感を浮き彫りにしております。現在、フランス系企業は国内で 14 万 3 千人以上を直接雇用し、197 の生産施設を運営しており、トルコが製造業の拠点としての地位を強化する一助となっております。

国際的な舞台において、トルコの認知度は主要な国際プラットフォームで拡大しました。シンガポール・フィンテック・フェスティバルは第 10 回を迎え、65,000 名を超える参加者を集めました。一方、リスボンで開催された Web Summit 2025 では 70,000 名以上のテクノロジーリーダーや起業家が一堂に会し、投資・財務局はトルコの活気あるテクノロジー及びスタートアップ・エコシステムを、誇りを持って紹介いたしました。第 2 回トルコ・日本投資フォーラム（東京）では、クリエイティブ産業と技術分野における新たな協力の可能性が模索されました。一方、トルコ・モロッコビジネス・投資フォーラムでは、貿易と投資における二国間協力がさらに深化しました。

金融イノベーションの勢いも引き続き見られました。中国工商銀行（ICBC）は、イスタンブールに人民元決済銀行を開設いたしました。これは、同銀行のトルコにおける事業開始 10 周年を記念するものです。イタリアのテクノロジー企業リーダーである TeamSystem は、二つの戦略的取引を通じて事業基盤を拡大いたしました。また、トルコのフィンテック企業 Onlayer はシリーズ A ラウンドで 820 万米ドルの資金調達に成功し、トルコがデジタル金融の活気ある拠点として台頭していることを改めて示しました。

国内では、トルコは持続可能性、製造業、ハラール経済におけるリーダーシップを強調する数多くの主要イベントを主催しました。イスタンブールで開催された「マシナリー・サミット 2025」は、ハイテクかつ持続可能な生産の未来に焦点を当てました。一方、第 11 回世界ハラールサミットは、トルコ大統領府の後援のもと、ハラールエコシステムのグローバルな関係者を一堂に集めました。トルコ E コマースウィークでは、17,000 名を超える参加者が集まり、AI がもたらす変革が商業の未来を形作る様子を探求しました。

複数の国々において、重点分野におけるトルコの強みを示すロードショーが継続的に開催され、投資家、革新者、市場の間で新たな架け橋を築いております。

今月はまた、トルコ共和国国家計画枠組みの基幹となる「2026 年大統領年次計画」が発表された月でもあります。持続可能な成長、イノベーション、投資主導の変革を中核に据えた本プログラムは、デジタル化、グリーン成長、財政規律に焦点を当てた先見的な政策課題を通じて、マクロ経済の安定性と国際競争力の強化を図ります。プログラムに示されている通り、投資・財務局は今後も、質の高い外国直接投資（FDI）の誘致、持続可

能な資金調達メカニズムの推進、高付加価値型・技術志向型生産を支える投資環境の強化において、引き続き重要な役割を果たしてまいります。

今後とも、トルコは大陸とアイデアと機会をつなぎ続け、より強靱で革新的かつ包摂的なグローバルな未来を形作ってまいります。投資・財務局では、このビジョンを推進し、トルコを世界の中心地として位置づけることに引き続き尽力してまいります。



A・ブラック・ダールオール投資・財務局総裁



## トルコの包括的成長、グローバルな正義、そしてグリーンな未来に向けたビジョンが、G20 の注目を集めています

レジェブ・タイIPP・エルドアン大統領は、ファーストレディのエミネ・エルドアン夫人とトルコ政府高官らと共に、南アフリカ・ヨハネスブルグで開催された G20 首脳会議に出席しました。到着後、エルドアン大統領とトルコ代表団は、本年サミットの主催者である南アフリカのシリル・ラマポーザ大統領より歓迎を受けました。

サミットは、世界経済の見通しに関する議論と、貿易、開発、保健、エネルギー、気候変動といった幅広い課題を含む議題で幕を開けました。主要な優先事項には、災害への耐性強化、脆弱な低所得国における債務の持続可能性確保、公正なエネルギー転換のための資金調達、開発途上国への気候変動対策資金の拡充、そして重要鉱物の責任ある開発を通じた包括的成長の推進が含まれております。

エルドアン大統領は、「誰も取り残さない包括的かつ持続可能な経済成長」、「強靱な世界—G20 の貢献」、「すべての人々のための公平かつ公正な未来：重要鉱物、ディーセント・ワーク、人工知能」と題されたセッションに参加し、各国指導者は、貿易、開発資金、災害リスク軽減、気候変動、食料システムについて意見を交わしました。

G20 サミットにおいて、エルドアン大統領は国際的な連帯と正義について力強いメッセージを発信しました。彼は、より深い国際協力、低所得国に対する公正な債務再編、そしてより強固な貿易ルールを求め、次のように訴えました。「G20 のすべての加盟国に対し、誰も取り残されない、より包括的な世界経済を構築する上で、より大きな責任を担っていただくよう、お願い申し上げます」。エルドアン大統領はまた、ガザにおける停戦を維持することが世界の平和にとって極めて重要であると強調しました。

サミット期間中、エルドアン大統領は、フランスのエマニュエル・マクロン大統領、イタリアのジョルジャ・メローニ首相、シンガポールのローレンス・ウォン首相、カナダのマーク・カーニー首相、ブラジルのルイス・イナシオ・ルラ・ダ・シルバ大統領、欧州委員会のウルズラ・フォン・デア・ライエン委員長、エチオピアのアビィ・アハメド・アリ首相、アンゴラのジョアン・ロレンソ大統領、オーストラリアの首相アンソニー・アルバーネーゼなど、複数の指導者と二国間会談を行いました。

エルドアン大統領は、サミットの傍らで開催された 2025 年ミクタ首脳会合にも出席しました。トルコは、メキシコ、インドネシア、大韓民国、オーストラリアの各国首脳と共に、地域課題、協力の機会、ならびに 2026 年にアンタルヤで開催予定の COP31 に向けた準備について協議しました。

サミットでは、トルコの持続可能なエネルギーに関する長期的なビジョンについても強調されました。2053 年ネットゼロ排出目標と「グリーン・フューチャー」枠組みは、トルコ共和国が気候変動への責任、持続可能な開発、そして世代間の公正に対する確固たる姿勢を示しております。世界的に認知されているゼロ・ウェイスト運動は、ファーストレディであるエミネ・エルドアン氏が牽引しており、トルコが責任ある生産、リサイクル、環境管理を推進する決意をさらに反映しています。この取り組みは、COP31 の核心的な優先事項と一致するものです。

今年の G20 サミットにおいて、トルコは世界の要としての戦略的役割を明らかに示し、包摂的成長、気候変動への責任、そしてより公平な国際経済システムに向けた明確なビジョンを提示しました。トルコは、2053 年までのネットゼロ目標、ゼロ・ウェイスト運動、そして COP31 に向けた主導的役割を通じて、より緑豊かで、より強靱で、より公正な未来の構築に尽力する、台頭する地域的・世界的プレイヤーとしての地位を確立しました。



## Turkcell と Google Cloud、トルコ初のハイパースケール地域データセンターを設立

Turkcell と Google Cloud は、トルコ初のハイパースケール地域データセンターを設立する画期的な合意に署名しました。これは同国のデジタルインフラにとって重要な節目となります。完成後、この世界クラスの施設は、Google Cloud が世界中に展開する 42 のハイパースケールリージョンの一つとなります。

本契約の一環として、Turkcell と Google は共同で総額 30 億米ドルを投資します。Google は 10 年間で 20 億米ドルを拠出し、Turkcell は 10 億米ドルを計画しています。新たなクラウド地域は、トルコから AI、データストレージ、サイバーセキュリティを含む幅広いサービス群を提供し、同国を先進的なクラウド技術の地域拠点として位置づけるものです。

サンフランシスコでのローンチイベントに続き、イスタンブールにて「Google Cloud Day Türkiye」が開催されました。本イベントには、トルコのジェヴデット・ユルマズ副大統領、メフメト・ファティフ・カズル産業技術大臣、Turkcell のアリ・タハ・コチ最高経営責任者、Google Cloud Türkiye のオンドル・ギュレルカントリーディレクターをはじめ、業界関係者の皆様が出席しました。

イスタンブールで開催された Google Cloud Day Türkiye において、ジェヴデット・ユルマズ副大臣は、この提携の戦略的価値を強調し、次のように述べました。「Turkcell と Google Cloud との間に結ばれた戦略的パートナーシップは、トルコのデジタル主権と地域における地位を強化する極めて重要な一歩です。この投資は、国際的な投資家の方々が我が国の経済の強さ、回復力、そして革新能力に対して抱いている信頼を反映するものでもあります」。

ユルマズ副大統領はまた、トルコの外国直接投資（FDI）戦略（2024-2028）について言及し、質の高い投資を誘致することの重要性を強調しました。「我が国の戦略の中核には、質の高い投資を我が国に誘致するという目標があります。単に投資額を増やすだけでなく、流入する投資の質を向上させることも重要です。この共同投資は、その好例です」。

さらに、AI 関連投資に対する世界的な関心の高まりを指摘し、AI スタートアップ企業に配分された世界のベンチャーキャピタルが 2024 年に 1315 億米ドルに達し、前年比 52% 増加したことを述べました。

イスタンブールで開催されたイベントで、カジル大臣はトルコが複数の分野においてデジタル変革を加速させるという野心を強調し、次のように述べました。「我が国の支援体制の効果が加速する中、2030年までにデータセンターとAI分野への投資として100億米ドルを呼び込んでまいります。」

カジル大臣はまた、2000年代初頭以降の国の技術的進歩を強調しました。2002年当時、トルコにはテクノパークがわずか2つしか存在しなかったことを指摘し、彼は次のように述べました。「現在、60都市に所在する113のテクノパークにおいて、12,000社を超える企業が研究開発とイノベーションを重点とした事業を展開しております。さらに、1,700を超える研究開発・設計センターでは、革新的な製品を開発する起業家やエンジニアが集結しております」。

この投資について、Google CloudのCEOであるトーマス・キュリアン氏は次のように述べています。「トルコに開設されるGoogle Cloudリージョンにより、当社のクラウドコンピューティングサービスが同国に提供され、42のクラウドリージョンからなるグローバルネットワークに接続されます。この新たな地域では、高速コンピューティング能力、高性能ストレージ、ネットワークインフラストラクチャ、ならびにサイバーセキュリティツールを提供いたします。また、データ処理および分析機能に加え、Google Cloudを基盤とした認定パートナーソリューションの包括的なスイートも提供いたします」。

Turkcellのアリ・タハ・コチ最高経営責任者（CEO）は、この取り組みの長期的な価値を強調し、次のように述べました。「トルコ初となるハイパースケールデータセンターの設立を進めております。これはトルコにとって歴史的な一歩となります。この新たなGoogle Cloudリージョンにより、企業はより迅速にイノベーションを実現し、グローバルな競争力を高めることが可能となります」。コチ氏はさらに、トルコ・クラウド・リージョンは国内規制に完全に準拠し、稼働開始後には年間50億米ドル以上の経済価値を創出すると見込まれていると述べました。

この提携により、Turkcellは先進的なGoogle Cloudテクノロジーを導入し、業務の効率化を図るとともに、トルコ国内の企業へGoogle Cloudソリューションを提供する信頼できるパートナーとして、同国がデジタルとイノベーションの拠点としての地位を確立する上で、より一層重要な役割を担うことになります。



## TürkMedya ファイナンスサミット 2025 において、トルコの金融見通しが注目されました

第2回「TürkMedya ファイナンスサミット」がイスタンブール金融センターにて開催され、政策立案者、業界リーダー、金融専門家が一堂に会し、トルコ金融セクターの最新動向と将来展望について議論しました。

「変革する経済における金融安定性、デジタル化、そして持続可能性」をテーマに開催された本イベントでは、トルコのジェヴデット・ユルマズ副大統領による基調講演が行われました。

サミットで発言したユルマズ副大統領は、世界的な傾向と比較したトルコの高いマクロ経済パフォーマンスを強調しました。彼は、2020年から2024年にかけて世界の経済生産高が累積で15%増加した一方で、

トルコ経済は同期間に30%拡大したと指摘しました。

「パンデミック期間中の政策、特に産業および農業生産の保護を目的とした施策は、明らかに成果を上げました。トルコは生産的な工業能力を維持し、競争力のある世界的な地位を保つことに成功しています」と副大統領は述べました。

ユルマズ副大統領は主要な輸出統計についても発表し、2025年1月から10月までの輸出額が前年同期比で3.9%増加したと述べました。「10月時点で、我が国の年間換算商品輸出額が初めて2,700億米ドルを突破いたしました。当期のサービス輸出額は1,200億米ドルを超え、累計で3,900億米ドルに達しました。

まもなく、トルコは4,000億米ドルを超える商品・サービスを輸出する国となるでしょう」と述べ、さらに観光業がサービス輸出の最も強力な構成要素であり続け、今年の収益は640億米ドルを超える見込みであると付け加えました。

投資・財務局長の A・ブラク・ダールオール氏もサミットにおいて包括的な講演を行いました。その内容は、参加型金融、金融技術、グリーンファイナンスに及びました。

ダールオール氏は、トルコが外国直接投資（FDI）を誘致する上で確かな実績を有していることを強調し、2003 年以降、同国が 2700 億米ドルを超える FDI を確保してきたと指摘しました。これは世界の FDI 総額の 1% に相当します。「過去 12 か月間だけで、トルコは 150 億米ドルを超える投資を誘致しました。最大のシェアは金融セクターが占め、次いで製造業とエネルギーセクターが続きました」と彼は述べました。

参加型金融の膨大な可能性を強調し、ダールオール氏は次のように述べました。「この分野には大きな可能性がある」と認識しており、その成長を図ってまいります。トルコは、銀行業務におけるデジタル化の面で目覚ましい水準を達成し、世界の競合国すべてをリードしております。これは過去 20 年間における主要な成功事例の一つです」。

ダールオール氏はまた、産業全体における急速なデジタル変革と、それが金融分野に与える影響を強調しました。「あらゆる分野でデジタル化が進んでおり、金融業界も例外ではありません。この変革は、規制当局が定めた範囲内で、引き続き速いペースで進み、今後さらに多くのフィンテックスタートアップ企業が登場すると予想されます」。



## シムシェク大臣が欧州復興開発銀行（EBRD）の高官と投資機会について協議

財務大臣メフメト・シムシェク閣下は、欧州復興開発銀行（EBRD）のグレッグ・ガイエット第一副総裁がトルコを初公式訪問された際、同氏と包括的な会談を行いました。

会談において、シムシェク大臣とガイエット氏は、トルコの経済成長、グリーン移行、民間部門の回復力について議論するとともに、協力関係の強化や欧州復興開発銀行（EBRD）による同国への融資・助言サービスの拡大に向けた新たな機会について検討しました。

シムシェク大臣ならびに複数の官民セクター代表者との会談を終えた後、銀行のクライアントサービスグループを統括し、銀行業務・アドバイザリー業務・政策活動を監督するガイエット氏は、アナドル通信社のインタビューに応じました。トルコを欧州復興開発銀行（EBRD）にとって「重要な国」と位置づけ、同機関にとって年間投資額およびポートフォリオ規模において最大の事業実施国であることを強調しました。

ガイエット氏は、欧州復興開発銀行（EBRD）が2025年にトルコにおいて42件のプロジェクトにわたり22億ユーロを投資したことを指摘しました。投資対象はエネルギー、インフラ、中小企業（SME）、企業開発、イノベーションをカバーしています。

ガイエット氏は、2024年に同銀行のトルコへの投資額が過去最高の26億ユーロに達したことを踏まえ、「年末までに、昨年達成した実績を上回るか、少なくとも同水準を達成できる可能性が非常に高いと確信しています」と述べました。

彼はまた、トルコの長期的潜在力に対する欧州復興開発銀行（EBRD）の強い確信を表明し、若く、成長を続け、教育水準の高い人口が大きな強みであると強調しました。

ガイエット氏はセクター別評価において、同銀行はクリーンエネルギー、イノベーション、民間セクター開発に注力し、トルコにおける持続可能な成長に向けた民間資本の呼び込みに重点を置くと述べました。同氏はさらに、同国は欧州復興開発銀行（EBRD）の重点分野において数多くの機会を提供していると付け加えました。

トルコは戦略的な立地、強靱な経済、そして高度な技能を持つ人材に恵まれていることから、欧州復興開発銀行（EBRD）にとって長年にわたり主要な投資先となっています。同銀行は 2009 年にトルコでの事業を開始しました。





## トルコとドイツ、自動車分野での協力関係を強化

ベルリンで開催された「第1回 2025年独トルコ自動車サミット」において、メフメト・ファティフ・カズル産業技術大臣は、両国間の経済協力の戦略的深みを強調し、将来の協力関係を構築する上で自動車産業が果たす極めて重要な役割を指摘しました。

カズル大臣は、ドイツがトルコにとって欧州における最も重要な貿易相手国であり続けていることを強調しました。「EU 関税同盟への参加は、トルコとドイツの関係を大きく強化しました。本日、両国は数十年にわたる共同の経験に基づいて築かれた、強固な経済・商業協力の基盤を共有しております」と彼は述べました。

カズル大臣は、このパートナーシップにおける自動車産業の中核的な役割を指摘し、同セクターがトルコの輸出を牽引し続けていると述べました。今年の輸出額は400億米ドルに達しています。ドイツの自動車メーカーとトルコの産業基盤との強固な調達連携を歓迎し、さらに次のように述べました。「本年開催されるサミットの主要な焦点は、業界が歴史的な変革期を迎える中、次世代モビリティをいかに共同で推進できるかを探ることです」。

カズル大臣は、トルコが特に防衛産業および航空宇宙産業において、先進技術の開発において世界水準の能力を既に示していることを強調しました。「トルコは単なる生産拠点ではなく、研究、革新、技術の国でもあります」と彼は述べました。

現在、60都市にまたがる113のテクノパークにおいて、12,000社以上の企業が活動し、様々な分野で革新的なソリューションを開発しています。トルコは、大臣が強調したように、モビリティの未来に向けて強力かつ重点的な投資を行っています。「トググはその具体的な例として挙げられます。起業に成功し、国内電気自動車市場のリーダーとなり、本年第二のモデルを発表しました。このナショナルブランドを中心に、ダイナミックな新たなモビリティエコシステムが急速に形成されつつあります」。

カズル大臣はまた、トルコが国際的な投資家にとって長年魅力的な国であることを改めて強調しました。「トルコに投資された皆様は、大きな利益を得られただけでなく、我が国の発展にも貢献されました。トルコは常に

予測可能性をもって行動し、投資家に優しい姿勢を示してきました。トルコを選択される企業は、我が国の熟練した労働力、生産能力、物流ネットワーク、戦略的な立地、そして強固な産業エコシステムといった利点を享受いただけます」。

大臣はさらに、トルコがデジタルインフラと人工知能に戦略的重点を置いていることを強調し、同国にはデータセンターと AI に関する包括的な政策枠組みが存在することを指摘しました。トルコは、現在の 250 メガワットを超えるデータセンター容量を、2030 年までに 1 ギガワットまで拡大することを目指しています。その大部分は、AI に特化したインフラストラクチャーに充てられる予定です。大臣はさらに、HIT 30 ハイテク投資プログラムを通じて、トルコがデータセンターおよび AI 投資向けの専用施策を開始したと述べました。計画されている公的支援は約 20 億米ドルに上り、2030 年までに総額 100 億米ドル近い投資を動員することが期待されています。

サミットにおいて、投資・財務局副局長ベキル・ポラト氏と国別アドバイザーのファルク・クルトゥルムシュ氏は、トルコの進化する自動車産業および工業能力が欧州の競争力をいかに強化し得るかを強調しました。両人は、トルコがより強靱なサプライチェーンを支える能力を有していること、ならびに e モビリティ、ソフトウェア、次世代部品、研究開発分野における新たな機会を強調し、二国間の産業協力が両国にとって戦略的優位性となることを位置づけました。



## トルコ・モロッコビジネス・投資フォーラムが二国間貿易を強調

トルコ・モロッコビジネス・投資フォーラムは、両国のビジネス界を代表する主要関係者が一堂に会し、二国間貿易、投資、経済協力の将来について議論する場を提供しました。本イベントは、対外経済関係委員会（DEIK）とモロッコ企業総連合会（CGEM）の共催により開催され、トルコ貿易大臣オメル・ボラト閣下の挨拶をもって開幕しました。

トルコ・モロッコ自由貿易協定の重要性を強調し、ボラト大臣は次のように述べました。「協定発効から 18 年間で、モロッコからトルコへの輸出は 9 倍に増加し、トルコからモロッコへの輸出は 8 倍に増加しました。2024 年現在、両国間の貿易額は 50 億米ドルに達しております」。

ボラト大臣はまた、経済関係の強化における投資の重要な役割を強調しました。「投資を躊躇すべきではありません。投資が拡大するにつれて、貿易も加速するからです。現在、モロッコに投資するトルコ人投資家約 200 名が、同国経済に約 10 億米ドルを貢献しております。このフォーラムは、トルコとモロッコのビジネス関係者にとって、投資と貿易における新たな機会を探るための重要なプラットフォームとして機能しています」。

ボラト大臣の挨拶に続き、モロッコ外務貿易担当国务長官のオマル・ヘジラ氏、およびモロッコ駐アンカラ大使のモハメッド・アリ・ラズレック氏が、さらなる協力の深化に対する熱意を表明し、商業交流の促進、貿易収支の確保、そして双方にメリットのある原則に基づく経済協力の推進という相互の願望を強調しました。

フォーラムにおいて、投資・財務局副局長であるフルカン・カラヤカ氏は「なぜトルコに投資すべきか」と題したプレゼンテーションを行い、トルコが世界の要衝としての地位を確立していることを概説しました。カラヤカ氏は、トルコが複数の分野にわたるダイナミックなビジネス環境を有していることを強調し、同国が世界第12位の経済規模を誇り、2002年から2024年までの平均成長率が5.3%に達していることを指摘しました。これにより、トルコは国際的な投資家にとってますます魅力的な投資先となっているのです。





## フランス企業、トルコ経済への信頼を改めて表明：新たな報告書が発表されました

投資・財務局は、フランス対外貿易諮問委員会トルコ委員会（CCEF）が作成した最新報告書『持続可能なインパクト：フランス企業及び仏トルコ共同事業によるトルコへの経済的・社会的貢献／2020-2024 年版更新』の発表イベントに参加しました。

発表会において、CCEF は本報告書の調査結果を発表しました。同報告書は、トルコで事業を展開するフランス企業および仏トルコ企業が生み出す経済的・社会的・環境的価値を詳細に分析したものです。本報告書は、これらの企業が直接雇用する従業員数が 14 万 3 千人を超え、間接的な効果を加味すると総雇用効果は約 38 万 5 千人に達することを強調しています。

フランスの企業およびパートナーシップは、トルコの経済環境において重要な役割を担う存在となりました。国内に 197 の生産施設を運営しているこれらの企業は、トルコを重要な市場としてだけでなく、製造業の拠点としても位置づけています。

報告書によると、これらの企業は 2024 年に 366 億ユーロの売上高を生み出しており、その収益の 22% が輸出によるものであることが明らかになりました。これは、フランスの資本がトルコの国際貿易ネットワークへの統合を強化する上で果たす戦略的役割を浮き彫りにしています。

さらに、本報告書はフランス企業および仏トルコ企業による研究開発とイノベーションへの取り組みについて明らかにしています。2022 年から 2024 年の間に、7 億ユーロを超える研究開発費を投資し、参加企業の 52% が大学、研究機関、または地域の関係者と共同プロジェクトで協力しました。特筆すべきは、これらの企業の 47% がトルコにおいて特許、商標、または意匠を登録している点です。

持続可能性に関する調査結果も同様に注目に値します。64% の企業が、管理職における女性の割合を増やすための具体的な措置を講じており、71% の企業が年次カーボンフットプリント評価を実施しています。これらの数値は、各社が社会的・環境的責任に真摯に取り組んでいることを示しています。

本報告書では、トルコ国内の様々な分野で事業を展開するフランス企業の存在と影響力についても取り上げています。アルストムやオヤク・ルノーの提携関係から、銀行業界における TEB、さらにはサノフィやデカスロンといった主要企業に至るまで、多岐にわたる分野での活動が紹介されています。

発足イベントにおいて、トルコ・フランス商工会議所（CCIFT）会長であり、TAV 空港取締役会メンバー兼執行委員会委員長を務めるフランク・メレイド氏は次のように述べました。「フランス企業のトルコにおける存在は、同国経済の基盤の一つであり、GDP の 1.6% を占め、約 40 万の直接・間接雇用を創出しております。これは、フランスとトルコ双方が共有するトルコ経済への信頼と長期的な戦略的ビジョンを明確に示すものです」。

投資・財務局広報部長のギョクハン・ユセル氏は、このパートナーシップの歴史的な深みを強調し、次のように述べました。「この提携は、140 年にわたる我々の商業的関係を反映するものです。2024 年までに、フランスとトルコ間の二国間投資残高は 84 億米ドルを超え、これは単なる経済数値ではなく、共有された長期的な目標と具体的なロードマップを反映しています」。

フランス駐トルコ大使のイザベル・デュモン氏も意見を述べ、この調査がフランス企業のトルコにおける長期戦略を裏付けるものであると強調しました。彼女は次のように述べました。

「フランスおよび仏トルコ企業は、過去 5 年間にトルコへ総額 36 億ユーロの投資を行ってまいりました。さらに今後 3 年間で、追加で 50 億ユーロの投資を計画しております」。

発表後、投資・財務局長の A・ブラク・ダールオール氏はレセプションにて次のように述べました。「フランスの企業がトルコにおいて貢献と献身的な取り組みをされている様子を拝見し、大変誇りに存じます。ここでは 1,300 社以上のフランス企業が事業を展開しており、過去 20 年間で総額 90 億米ドル近くの投資が行われております。この成長は、両国間の強固な絆を反映するものです。今後もフランス企業への支援を継続し、この協力を拡大していくことを楽しみにしております」。



## 2026 PRESIDENTIAL ANNUAL PROGRAM

### 投資・財務局は、2026 年度大統領年次プログラムに基づく主要施策を推進します

大統領年次プログラムは、トルコ共和国国家計画体制の中核的手段の一つであり、中期プログラム（MTP）と公共機関の組織的戦略計画との架け橋としての役割を果たしています。大統領府戦略・予算局の統括のもと、毎年作成される本文書は、第 12 次開発計画の優先事項を具体化し、翌年度に向けた実行可能な目標、政策措置、および業績評価指標へと転換するものです。

2026 年大統領年次プログラムは、持続可能な成長、イノベーション、そして投資主導の変革に焦点を当てています。マクロ経済の安定性と国際競争力の強化を目的として設計された本プログラムは、デジタル化、グリーン成長、財政規律を長期的な経済的回復力の主要な柱として統合する、先を見据えた枠組みを導入します。

プログラムに基づき、投資・財務局は今後もトルコの投資政策を推進する上で中核的な役割を果たし、質の高い外国直接投資（FDI）の誘致を支援するとともに、持続可能な資金調達エコシステムの構築を促進してまいります。当事務所の取り組みは、持続可能な資金調達メカニズムの促進から、付加価値の高い技術志向の生産と国際競争力を促進する投資環境の強化に至るまで、プログラムの優先事項と完全に一致しております。

2026 年プログラムは、持続可能で包摂的かつ革新志向の成長を確保するために設計された五つの基本方針を中心に、トルコの開発ビジョンを定義しています。これらの柱には、成長、雇用、国際収支、財政政策を優先する安定かつ強固な経済、グリーン・デジタル変革に支えられた競争力ある生産体制（製造業、重点開発分野、セクター別政策、政府のインセンティブに焦点を当てる）、人的資本と社会福祉を強化する熟練労働力、強固な家族構造、健全な社会、都市化と環境保護の強化、輸入依存度の低減、供給安全保障の支援、都市インフラの改善を図る災害に強い生活空間と持続可能な環境、さらに、公正、安全保障、戦略的な公共部門管理、開発のための国際協力、公共部門の人材を基盤とする民主的ガバナンスが含まれます。

投資・財務局は、公的機関および国際パートナーと連携し、自由貿易地域のブランド価値向上、フィンテック分野における人的資源のソフトウェア関連職種への移行支援、フィンテックと金融機関の相互作用に関する規制枠組みの強化、参加型資金調達メカニズムおよび包括的な受託者ガバナンス構造の確立支援、投資プロセスガイドの手続き効率化およびセクター別ワンストップショップ構造の創設促進、より効果的な調整と投資立地配分の新たなモデルを推進し、代替投資地に関する情報を提供するデジタルプラットフォームの整備を支援し、代替

投資シナリオを評価する調査を実施し、トルコが外国直接投資（FDI）を誘致・誘導・促進する能力を向上させます。

2026 年大統領年次プログラムは、トルコ共和国が責任ある先見性のある経済ガバナンスへの取り組みを改めて表明するとともに、あらゆる分野における変革を持続させる決意を固くするものです。投資・財務局は、その機関としての使命と積極的な投資戦略を通じて、投資、成長、デジタル化、イノベーション、技術、製造、物流、金融、人材、モビリティ、バリューチェーン、持続可能性、そしてレジリエンスにおける世界の結節点としてのトルコの地位を、今後も強化してまいります。



## 投資・財務局は、2026 年度大統領年次プログラムに基づく主要施策を推進します

世界最大のフィンテックイベントであるシンガポール・フィンテック・フェスティバルが 10 回目の開催を迎え、フィンテック推進者、世界のリーダー、ベンチャーキャピタルの幹部、革新的な起業家など、65,000 名を超える参加者が集結しました。フェスティバル期間中、業界の主要人物や有力企業が新たなトレンドを発表し、新製品をローンチするとともに、フィンテック産業の今後の発展方向性について議論を深めました。

この国際的な舞台においてトルコを代表し、投資・財務局がフィンテック・ゾーン・イスタンブールと共同で主催するトルコパビリオンでは、トルコに拠点を置くフィンテック企業 8 社、ブル・テクノロジー、コレンディ、エンクラ、インサイダー、マーズ・ネオ、ペイウォール、ラリー、トレイシーを紹介しました。これらの企業は、国際的な投資家やテクノロジーリーダーに対し、トルコの成長する革新的な能力と先見性のあるデジタル金融ビジョンを披露する機会を得ました。

投資・財務局長の A・ブラク・ダールオール氏ならびに駐シンガポールトルコ共和国大使のサドゥク・アルスラン氏は、「Invest in Türkiye – Fintech Zone Pavilion」を訪問し、トルコのフィンテック・エコシステムとの交流を図るとともに、関連企業に関する最新情報を受け取りました。

トルコが本イベントに参加し、フィンテック分野で勢いを増していることについて、ダールオール氏は次のように述べました。「金融の中心地として、トルコではフィンテック投資が著しく増加しています。過去 5 年間に於いて、フィンテック企業は 205 回の投資ラウンドを通じて 5 億 9000 万米ドルの資金調達を実現しました。この成功の背景にある主な要因の一つは、トルコの若く技術に精通した人口と、次世代の銀行ソリューションにあります」。

ダールオール氏はまた、トルコの規制枠組みが近年大幅に強化されたことを強調し、これにより投資家はイノベーションを安全かつ持続可能な形で拡大できるという確信を得ていると述べました。

シンガポール・フィンテック・フェスティバルに3年連続で参加した投資・財務局は、トルコのグローバルなフィンテック分野における存在感を拡大するとともに、アジア市場における確固たる地位を強化する取り組みを継続してまいります。





### トルコ・日本フォーラム、クリエイティブ産業における機会を強調

東京で開催された第2回トルコ・日本投資フォーラムには、日本の官民から約300名が参加し、クリエイティブ産業とテクノロジー分野における新たな協力の可能性について議論が交わされました。

本フォーラムは、投資・財務局、日本貿易振興機構（JETRO）及び国連工業開発機関（UNIDO）の主催により、在東京トルコ大使館、経済産業省、日本経済団体連合会（経団連）、日本商工会議所（JCCI）、及び日本海外投資機構（JOI）の支援のもと開催されました。本フォーラムは、トルコと日本との間の投資可能性の高まりを強調するものでした。本フォーラムは、製造業やインフラといった伝統的な分野を超えたトルコと日本の投資可能性の高まりを強調するものでした。

本フォーラムでは、投資・財務局長のA・ブラク・ダールオール氏、駐日トルコ大使のオウズハン・エルトゥールル氏、経済産業省審議官の辻阪高子氏、国連工業開発機関（UNIDO）東京事務所所長の足立文緒氏による基調講演が行われました。

イスタンブール金融センターのアフメット・イフサン・エルデム最高経営責任者（CEO）も挨拶を述べ、トルコと日本の二国間関係および協力の機会を強調しました。同フォーラムがこれらの絆をさらに強化する上で重要な役割を果たすことを特に指摘されました。

フォーラムの一環として開催されたパネルディスカッションでは、ご登壇いただいた著名なスピーカーの皆様が、イノベーション、デジタルコンテンツ、スタートアップ、クリエイティブ産業における二国間のビジネス機会について、貴重な見解を共有しました。

フォーラムは、トルコと日本のビジネスリーダーを結ぶ活発なネットワーキングセッションをもって閉幕し、両国間の経済関係の強固さと活力を改めて確認しました。



## 中国工商银行（ICBC）がイスタンブールに人民元決済銀行を開設

中国工商银行（ICBC）は、トルコでの事業開始 10 周年を記念し、イスタンブールにて開所式典を開催し、同国における人民元決済銀行を開設しました。

基調講演者として登壇されたのは、投資・財務局長官の A・ブラク・ダールオール氏、駐トルコ中国大使の姜学斌氏、財務省次官のオスマン・チェリック氏、ならびにトルコ共和国中央銀行総裁のファティ・カラハン氏です。

ダールオール氏は演説の中で、「わが国における中国工商银行人民元決済銀行の設立は、中国によるトルコへの投資拡大に向けた戦略的な一歩です」と述べ、この動きがトルコが金融の結節点となるという目標に沿うものであると付け加えました。

トルコには現在、1,400 社を超える中国企業が拠点を置き、投資額は 30 億米ドルを超えています。



## トルコはアルバラカ・サミットにおいて参加型金融におけるリーダーシップを発揮しました

世界の銀行、投資、起業エコシステムの高位代表者が、第4回アルバラカ・サミットのためロンドンに集結しました。

「新たな地平線：グローバル市場におけるイスラム経済、ムスリム多数派社会を超えて」をテーマに開催された本サミットでは、投資・財務局長のA・ブラク・ダールオール氏より、参加型金融の現状と今後の展望について包括的な発表が行われました。

ダールオール氏は、トルコが参加型金融の要としての重要な役割を担っていることを強調し、同国の銀行セクターが力強い成長を遂げている点を指摘しました。現在、参加型銀行は総資産の8%を占め、スクーク発行額は市場の12%を占めています。

トルコが参加型銀行業務において積極的な姿勢を示していることを強調し、ダールオール氏は、参加型金融セクターで事業を展開する企業は、イスタンブールからより広範な地域にサービスを提供することが期待されていると述べました。



### 投資・財務局がロンドンにてハイレベルなファミリーオフィス集会を開催

投資・財務局は、在ロンドンの厳選されたファミリーオフィスを対象とした特別会合を、ロンドンにあるトルコ大使公邸にて開催しました。投資・財務局長の A・ブラク・ダールオール氏と駐英国トルコ大使のコライ・エルタス氏が共同議長を務めた本会議では、トルコの投資環境と優先度の高い機会に関する議論が中心となりました。

15 の著名なファミリーオフィスの代表者を集めた本イベントでは、ダールオール氏によるトルコの投資環境に関する詳細なプレゼンテーションが行われ、その後、参加者が関心のある主要分野について直接交流できる双方向の質疑応答セッションが実施されました。

約 1 時間半にわたる非公開の円卓会議は、トルコの戦略的投資見通しに関する建設的な対話の場を提供し、同国が投資の要衝としての地位をさらに強化するものとなりました。



## トルコのイノベーションとテクノロジーに関するビジョンが、ウェブサミット 2025 において世界的な注目を集めています

ウェブサミット 2025 は、欧州最大級のテクノロジーと起業家精神のイベントの一つとして、リスボンに 7 万人を超えるテクノロジー愛好家、業界リーダー、ベンチャーキャピタルファンドの幹部、公的機関の代表者らを集めました。

サミットにおいてトルコを代表して、投資・財務局はトルコパビリオンの運営にあたり産業技術省と戦略的パートナーシップを締結しました。両公的機関はトルコのスタートアップ企業 7 社—アポロ、キャッチパッド、クラフトゲート、ゴールドフレーマー、オクトックスラボ、パルゲイ、プライシングコーチー—を紹介しました。

これらのスタートアップ企業は、SaaS、金融・金融技術、旅行、宿泊、サステナビリティ、クリーンテクノロジー、セキュリティ、スポーツ、フィットネスといった分野における自社製品やソリューションを、国際的な投資家やテクノロジーリーダーの皆様に発表する機会を得ました。

イベント開催中、トルコ共和国大国民議会公共事業・都市計画・交通・観光委員会委員長であり、元交通・インフラ大臣であるアディル・カライスマイロール氏がトルコパビリオンを訪問し、トルコの起業家エコシステムとの交流を図り、各社の最新情報を入手しました。

トルコ共和国が本サミットに参加することについて、投資・財務局長の A・ブラク・ダールオール氏は、同局がトルコの技術とイノベーションを重視した成長ビジョンに沿った国際的なイベントに積極的に参加していると述べました。

「2010年から2019年にかけて、トルコのスタートアップ企業は927回の投資ラウンドで総額6億6000万米ドルの資金調達を実現しました。一方、2020年以降の5年半の期間においては、2117回の投資ラウンドで総額56億米ドルに達しております。年間平均10億米ドルの投資額は、トルコの起業家エコシステムが成熟し、国際的な投資家の注目を集めつつあることを明確に示しています。

近い将来、高度な起業家エコシステム、若く技術に精通した人口、有能な製品開発者の人材プール、強力なテスト環境、そして加速する投資動向により、多くのトルコ企業が10億ドルの評価額基準を超え、「ターコーン」の地位を獲得すると確信しています」と彼は付け加えました。

投資・財務局は、創造的なアイデアと解決策にあふれたトルコの比類なき人材の宝庫を国際ビジネスコミュニティに紹介する取り組みを継続し、同国がイノベーションの拠点としての地位を確固たるものとしています。



## トルコがマシナリー・サミット 2025 において製造業のリーダーシップを披露

マシナリー・サミット 2025 は、イスタンブールにて業界のリーダー、政策立案者、主要な関係者を集め、持続可能性と先進技術が次世代の製造業をどのように形作るかを探求しました。

トルコ機械工業連盟主催の本サミットは、メフメト・ファティフ・カズル産業技術大臣による基調挨拶で幕を開けました。大臣は過去 23 年間におけるトルコの生産、産業、技術分野での目覚ましい変革を強調するとともに、同国発展における機械産業の戦略的役割を力説しました。

サミットにおいて、投資・財務局副局長ゼイネル・クルンチ氏は開会の挨拶を行い、機械・設備は単なる産業用部品ではなく、トルコの産業基盤と国際競争力を強化する戦略的資産であることを強調しました。機械産業は、高付加価値生産を可能にし、自動車、航空宇宙、エネルギーなどの主要分野を支援することで、投資家の信頼を高め、外国直接投資（FDI）誘致において決定的な役割を果たしています。

トルコは、高付加価値生産の製造拠点としての役割を強化し続け、グローバルな産業エコシステムにおける信頼できるパートナーとしての地位を確固たるものとしています。



## 投資・財務局が米国ロードショーにおける投資対話を推進

投資・財務局は米国において、マサチューセッツ州、テネシー州、ニューヨーク州の三州をまたがるロードショーを実施しました。これらの州は、ベンチャーキャピタル、先端製造業、クリーンエネルギー、デジタル技術における世界の未来を形作る主要なエコシステムを形成しています。

投資・財務局副局長ベキル・ポラト氏とアナリストのセルダル・ケレス氏は、主要金融機関、イノベーション拠点、技術関係者と会談し、トルコの活気ある投資環境について説明しました。

ボストンでは、代表団は世界のベンチャーキャピタル業界と交流し、欧州、中東、中央アジアに事業拡大を図る企業にとっての金融の要衝としてのトルコの戦略的立場を強調しました。

ナッシュビルでは、代表団は市長執務室と会談を行い、先端製造業とクリーン技術分野における協力の可能性について協議しました。

本プログラムはニューヨークにて、トルコハウスでの円卓会議をもって終了しました。この会議にはベンチャーキャピタリスト、起業家、金融業界の幹部、そしてテクノロジー分野のリーダーの方々が一堂に会しました。本セッションでは、トルコの投資環境、スタートアップ・エコシステム、そして新たな国境を越えたパートナーシップの機会について、様々な視点を交換するためのオープンな場を提供しました。

ロードショー期間中、ポラト氏は国際ビジネス評議会においてもプレゼンテーションを行い、トルコの競争優位性と、グリーン・デジタル変革によって拡大する機会について概説しました。



## トルコ、世界ハラールサミットにおいて革新と成長を強調

第11回世界ハラールサミット・イスタンブールは、ハラールエコシステムのグローバルな関係者が一堂に会する場として、トルコ大統領府の後援のもと、イスラム諸国標準計量機構（SMIIC）との協力、ならびにトルコ貿易省およびハラール認証機関の調整により開催されました。

サミットにおいて、投資・財務局副局長であるフルカン・カラヤカ氏は「ハラール貿易における革新と卓越性」と題した基調講演を行い、ハラール経済が7兆米ドル規模の世界的な経済大国となったことを強調しました。カラヤカ氏は、トルコ国内で11の参加銀行によって支えられ、総資産が3兆トルコリラに達し、市場シェアが9%を超える参加型金融の戦略的重要性を強調しました。また、同氏はイスタンブール金融センターにおけるフィンテック革新と参加型金融の進展についても言及し、2024年のスクーク発行額が2720億トルコリラを超え、参加型投資ファンドが1年間で130%以上成長したことを強調しました。

投資・財務局財務部長のタルク・アクン氏も、「ハラール品質インフラ／ハラール産業における標準化、認証及び認定」セッションのモデレーターとしてサミットに貢献しました。

トルコのハラール経済における能力の向上は、同国の国際的な役割を高め続けており、急速に拡大するこのエコシステム全体で持続可能かつ長期的な成長を求める投資家にとって、トルコをバリューチェーンの要衝かつ重要なパートナーとして位置づけています。



### トルコ共和国、ホライズン・ディープテック・サミットにて公的資金のビジョンを発表

マドリードにて業界のリーダー、投資家、革新者の方々をお招きしたホライズン・ディープテック・サミットは、ディープテックとイノベーションの未来を探求する場となりました。

投資・財務局副局長ベキル・ポラト氏は、円卓会議「国家戦略、欧州のビジョン — イノベーションの触媒としての公的資金」にて講演しました。

議論は、国家戦略と公的資金枠組みが、ディープテックの革新を加速し、イノベーション・エコシステムを強化する方法に焦点を当てました。ポラト氏は、トルコを投資の要衝として位置付け、HIT-30 プログラムや更新されたインセンティブ枠組みを含む戦略的な公的資金支援アプローチを概説しました。さらに、調整された政策、研究開発支援メカニズム、イノベーションを促進する規制が、欧州のディープテックおよび二つの転換（グリーン・デジタル）アジェンダにおけるトルコの信頼できるパートナーとしての役割をいかに強化しているかを説明しました。

サミットの一環として、投資・財務局のカントリーアドバイザーであるヤセメン・コルクジュ氏とアナリストのアナス・マクマルジ・ホガ氏が、スペインのディープテック・エコシステムを形成する主要な投資家やイノベーターとの会合を行いました。



## トルコはイタリアのビジネスコミュニティとの投資対話を強化しています

投資・財務局は、両国が幅広い分野で経済関係を深化させ続ける中、トルコの活気ある投資環境を紹介するため、最近のロードショーにおいてイタリアのビジネスコミュニティと交流しました。

ローマでヌンツィアンテ・マグローネ氏主催にて開催された「トルコ：世界の結節点」と題する会議において、駐トルコイタリア大使エリフ・チョモール・ウルゲン閣下の参加のもと、投資・財務局副局長ベキル・ポラト氏がイタリアのビジネスリーダー各位に対し、トルコのイノベーション・エコシステム、戦略的協力の機会、そして多様な投資の見通しについて講演しました。

会議において、ポラト氏はトルコ経済の詳細な概観、国内市場における収益性の高い投資分野、ならびに運輸、エネルギー、観光、接続性、イノベーション・エコシステム、インセンティブ制度にわたって拡大する機会について説明しました。ポラト氏は、これらの分野における協力が両国にとっての中長期的見通しにおいて、

戦略的かつウィンウィンの関係を創出すると強調しました。

ポラト氏はまた、トルコとイタリアが現在の 320 億米ドルから 400 億米ドルへ貿易額を拡大することを目指していることを指摘し、すでに 1,600 社以上のイタリア企業がトルコで事業を展開していることを強調しました。彼はさらに、2026 年まで投資協力をさらに強化するための一連のプロジェクトや計画中のイベントが進行中であると付け加えました。

トルコとイタリアの経済協力の深化は、高付加価値の機会を創出し続けており、戦略的かつ長期的な成長を求めるイタリアの投資家にとって、トルコはバリューチェーンの要となる位置づけを確立しています。





## トルコ、グローバル・ヘルス・エキスポ 2025 にて医療イノベーションを特集

トルコは、アンカラ商工会議所が主催する国家参加の一環として、リヤドで開催された「グローバル・ヘルス・エキスポ 2025」において、医療および健康技術に関する国家ビジョンを成功裏に展示いたしました。

展示会開催を記念して行われたガライベントにおいて、マフムト・ギュルジャン貿易副大臣、ギュルセル・バラン商工会議所会長、および投資・財務局副局長フルカン・カラヤカ氏は、トルコが世界の医療・イノベーション・エコシステムにおける戦略的パートナーとして果たす役割の拡大について、それぞれの見解を述べました。

カラヤカ氏は演説の中で、トルコが過去 20 年間にわたる包括的な変革を推進し、インフラ、デジタル医療システム、研究開発能力への戦略的投資によって支えられ、地域で最も強固な医療モデルの一つを構築してきたことを強調しました。

展示会期間中、トルコは強力な研究開発能力、先進的な生産技術、主要分野における強みを強調し、国内の成功事例を紹介する革新的なスタートアップ企業の参加を特集しました。本イベントは、リード獲得の場として機能するとともに、公的機関や民間企業を含むトルコとサウジアラビアの関係者間の協力機会を探る場ともなりました。

サウジアラビアのビジョン 2030 と緊密に連携しながら、トルコはデジタル化、バイオテクノロジー、医療イノベーションにおける協力を促進し続けております。これにより、グローバルな医療分野において、信頼できる先見性のあるパートナーとしての地位を確固たるものにしています。



## トルコがフォーブス「30 Under 30」で次世代のイノベーターを称える

フォーブス・トルコは、社会と環境への価値創造に貢献し、将来のリーダーとして注目される 30 歳未満の若手人材を称える「30 Under 30」の今年の受賞者を発表いたしました。イスタンブールで開催されたイベントでは、起業家精神、スポーツ、芸術、科学など、複数の分野にわたって表彰が行われました。

投資・財務局副局長ベキル・ポラト氏が式典に出席し、AI を活用した投資モデルで驚異的な 90%の成功率を達成したリデル・カラ氏に技術部門の賞を授与しました。

トルコは、多様な分野で未来を形作る次世代の革新者、起業家、創造的なリーダーたちを育む、人材の結節点として成長を続けております。



## E コマース週間がトルコの成長するデジタル経済を浮き彫りに

トルコ E コマースウィークが「フューチャーコマース」をテーマにイスタンブールで開催され、17,000 名を超える参加者が集結しました。本イベントでは、成長のダイナミクス、AI がもたらす機会、そして E コマース分野における継続的なデジタル変革について探求が行われました。

トルコ貿易省、電子商取引事業者協会（ETİD）、トルコ商工会議所連合会（TOBB）の共催により開催された本イベントは、2 日間にわたり、パネルディスカッション、マスタークラス、ワークショップ、展示会、体験ゾーン、スタートアップ企業と既存企業との商談会、ネットワーキングセッションなど、

包括的なプログラムが展開されました。

本イベントの一環として、投資・財務局広報部長のギョクハン・ユセル氏が「電子商取引の価値の高まり：トルコにおける投資機会」と題したパネルディスカッションの司会を務めました。パネルディスカッションにおいて、ユセル氏はトルコの投資エコシステムにおける新たな経済構造の出現を、「技術、インフラ、人材、製造、物流、金融を単一の相互接続された全体へと統合する構造」とであると強調しました。また、トルコが大陸、産業分野、サプライチェーンを結ぶ世界の要衝として果たす独自の役割についても強調しました。

本パネルディスカッションには、ウーバー最高事業責任者マドゥ・K 氏、カスピーペイ会長兼ヘプシブラダ取締役サンドロ・ベルゼニシュヴィリ氏、プリンスビル・キャピタル共同創業者兼マネージングパートナーエマニュエル・デソウザ氏、ムバダラ・テクノロジーディレクターサレム・アルシャムシ氏など、世界をリードする専門家の方々が登壇し、トルコの急速に進化する電子商取引の動向と投資可能性について貴重な見解を披露しました。



## トルコ、総領事会議において国際経済関係を推進

トルコ国外に勤務する総領事各位がアンカラに集結し、初の総領事会議が開催されました。会議はハカン・フィダン外務大臣による基調講演をもって開幕しました。

フィダン大臣は、トルコの拡大を続ける世界的な外交ネットワークについて言及し、263 の在外公館を有するトルコが現在、世界で 3 番目に大きな外交ネットワークを有していると述べました。大臣は次のように述べました。「2004 年、在外公館における年間取扱件数はわずか 14 万 7 千件でした。現在、この件数は 300 万を超えています」。

「総領事館がトルコの対外経済関係強化において果たす役割」と題されたセッションにおいて、投資・財務局広報部長のギョクハン・ユセル氏は、トルコが戦略的投資拠点として世界的に認知度を高めていることを強調する講演を行いました。

ユセル氏は、トルコが 2003 年以降、投資家に優しい改革と機敏で革新志向の経済を原動力として、2800 億米ドルを超える外国直接投資（FDI）を誘致してきたことを強調しました。ユセル氏はまた、同局が設立 20 周年を迎えるにあたり、世界 20 都市で実施される一連のプロモーションイベントが、トルコの国際的な投資パートナーシップをさらに強化し、物流・イノベーション・持続可能性をグローバル規模で結ぶ世界の結節点となるというビジョンを確固たるものにするだろうと述べました。



## トルコ、IME 2025 において、世界の要となる存在としての地位を確立

投資経営展（IME）2025 は、フランクフルトにて投資機関、政策リーダー、グローバル産業の代表者が一堂に会し、持続可能な成長、グリーン・トランスフォーメーション、そして国境を越えた投資の未来について議論する場となりました。

本イベントにおいて、投資・財務局広報部長のギョクハン・ユセル氏は「トルコへの投資：世界の結節点」と題した基調講演を行いました。彼はトルコがもはや単なる成長中のデジタル市場や地理的架け橋ではなく、電子商取引の拠点、イノベーションの実験場、そして世界的な商取引が再定義されるこの時代に、人材・市場・資本を結ぶゲートウェイとしての役割を担っていると強調しました。

ユセル氏はまた、トルコが複数の世界を同時に結びつけていることを強調しました。具体的には、地域、バリューチェーン、エネルギー回廊、イノベーションクラスター、製造拠点、そしてデジタルプラットフォームです。結びつけることによって、投資家、革新者、起業家の方々に対し、分断が進む世界情勢の中でますます希少となるもの、すなわち明確さ、安定性、そしてつながりを提供します。

トルコは、強靱なバリューチェーンの構築、次世代産業の育成、投資家重視の変革を推進することにより、世界の結節点としての地位を強化し続けております。これにより、グローバルな連携を強化し、投資の未来を形作っています。



## トルコ、2025 年スーパーヨットサミットにおいて国際的な役割を高める

イスタンブールで開催された「スーパーヨット・サミット・トルコ 2025」には、20 カ国以上から 450 名を超える世界のリーダーが集結し、スーパーヨット産業の未来を構想するとともに、トルコが世界のヨット業界において増大する影響力を示す場となりました。

サミットにおいて、投資・財務局官民連携部門責任者のアリ・カミル・オズメン氏は開会の挨拶を行い、トルコの強靱な経済と良好な投資環境を強調しました。オズメン氏は、トルコの競争力ある生産能力、拡大する世界的認知度、そしてスーパーヨット産業における戦略的優位性を強調しました。同氏はまた、同国の熟練した労働力、設計とエンジニアリングにおける革新性、そして強固な国際的なパートナーシップを強調しました。トルコが BOAT International 誌のグローバル受注高ランキングにおいて、スーパーヨット生産で世界第 2 位に位置していることは、同セクターの堅調な産業基盤と持続的な国際競争力を反映するものです。

トルコは、品質、規模、そして国際市場への戦略的アクセスを求める世界中の投資家や業界リーダーを引き続き惹きつけており、これにより、世界のスーパーヨット業界における革新と投資の拠点としての地位をさらに確固たるものとしています。



### トルコの参加型金融ビジョンがイスラム学術協議ワークショップで議論されました

イスラム経済・金融に関する第2回学術協議ワークショップが、マルマラ大学イスラム経済・金融応用研究センター（AKIFAM）との共催により、アフィヨン・コジャテペ大学にて開催されました。

イスラム経済金融研究所（MUSIEF）とアルバラカ・トゥルク・パースティシペーション銀行が、公的機関および民間機関の学者ならびに主要な経営陣の方々を一堂に集めました。

投資・財務局財務部長のタリク・アクン氏がワークショップのパネリストとして登壇し、同局が実施したプロジェクトについて言及しました。具体的には、参加型青少年育成プログラム、金融リテラシー向上プロジェクト、イスラム金融用語集、ならびにディヤネット・アカデミーとの協働事業などが挙げられました。アクン氏はまた、マレーシアに拠点を置く国際イスラム金融教育センター（Incief）大学との今後の協力の可能性についても示唆しました。

投資・財務局は、トルコが参加型金融の拠点としての地位を強化するという使命を継続してまいります。



### チームシステム、トルコにおける事業拡大のため、二つの戦略的投資を実施

イタリアのテクノロジーおよび AI 企業であるチームシステムは、企業および専門家向けのデジタル経営管理プラットフォーム開発をリードする企業として、子会社マイクログループを通じて完了した 2 件の新たな戦略的取引により、トルコにおける事業基盤の強化を図っています。

当グループは、中小企業向けクラウド型経理前処理・経営管理プラットフォーム、bizim・ヘサップの全株式を取得しました。また、金融リスク管理およびコンプライアンスソリューションを専門とするフィンテック企業 Nef Solution の少数株式を取得しました。

2013 年にイスタンブールで設立された bizim・ヘサップは、40,000 社以上の中小企業が利用し、60 名の専門家が勤務しています。統合されたサービス群には、電子請求書発行、倉庫管理、電子商取引、仮想 POS、燃料管理サービスが含まれており、これにより同社はトルコ市場における主要プレイヤーの一角を占めています。bizim・ヘサップはマイクログループの既存ポートフォリオに加わります。創業者のメフメット・チェリク氏とバルシュ・イナルポラト氏は、業務と製品の継続性を確保するため、引き続き現職を務めます。

2021 年に設立された nefsolution は、金融機関と中小企業の双方を対象に、金融リスク管理およびコンプライアンス向けの AI 駆動型製品群を急速に開発してきました。同社の顧客基盤は主に銀行で構成されており、すでにモードファイナンス社と提携しております。モードファイナンス社はチームシステム・グループの一員であり、信用格付け、財務分析、ビジネスインテリジェンスを専門としています。

これらの取引は、2023 年 7 月にチームシステムがマイクログループを買収したことに続くものであり、グループの国際的な存在感をさらに強化するものです。トルコは、そのダイナミックなビジネス環境だけでなく、ヨーロッパとアジアの接点という地理的位置からも、戦略的市場として引き続き際立った存在であり続けています。



# ONLAYER

## トルコのフィンテック企業オンレイヤー、グローバル展開を推進するため、シリーズ A ラウンドで 820 万米ドルの資金調達を実施

フィンテックの革新企業であるオンレイヤーは、シリーズ A 投資ラウンドにおいて 820 万米ドルの資金調達に成功し、世界的な金融サービス業界向け急成長テクノロジープロバイダーとしての地位を強化しました。

新たな資金調達は、中東、アフリカ、アジア太平洋地域における当社の拡大戦略を推進する上で中心的な役割を果たします。これらの地域では、デジタル金融インフラへの需要が引き続き高まっています。

オンレイヤーは、法人顧客向けサービスを提供する銀行、決済機関、フィンテック企業向けに、収益管理、コンプライアンスプロセス、リスク監視を統合したエンドツーエンドのプラットフォームを提供しています。これらの中核機能を単一の技術環境に統合することにより、同社は金融機関が効率性を高め、業務上のリスクを低減し、顧客エンゲージメントを向上させることを可能にしています。

シリーズ A ラウンドはオレカ・キャピタルが主導し、エミレーツ NBD グループ傘下のデニズバンクのベンチャーキャピタル部門であるデニズ・ベンチャーズ、レボ・キャピタル、トルコ開発基金（INVEST101）、サンディープ・ゴメス氏、ヴェステル・ベンチャーズとタシルル・アセット・マネジメントが共同で運用するゲレジェック・エティ基金など、複数の著名な投資家が参加しました。

オンレイヤーは 12 カ国で事業を展開しており、今回の新たな資本注入により、製品群のさらなる開発、地域におけるプレゼンスの強化、そして金融セクターにおけるデジタルトランスフォーメーションがますます戦略的意義を高めている市場での成長加速に充てられると述べています。

オンレイヤーの共同創業者兼最高経営責任者（CEO）であるキヴァンチ・ハルプトル氏は、過去 6 年間における同社の進展は、強力なチームワーク、献身的な顧客、支援的な投資家、そしてトルコの先進的な銀行エコシステムから得た豊富な経験の結果であると述べました。

オンレイヤーは、業界基準を再定義するグローバルな先駆者として認められたことを誇りに思っていると強調し、チームは今後も世界的な分野における主要な技術プロバイダーとなるべく、全力を尽くして取り組んでいくと付け加えました。

オレカ・キャピタルのマネージング・パートナーであるイルケル・ソズディンラー氏は、オンレイヤーが金融機関の法人顧客との関係管理の在り方を再構築していると強調しました。

同氏は、成長ファンドによる初の投資を主導できることを喜ばしく思うと述べ、オンレイヤー社が複数の地域において迅速かつ持続的に事業規模を拡大できる能力について確信を示しました。



## バスク円卓会議がトルコの投資可能性を強調

バスク貿易投資局 / Agencia Vasca de Internacionalización Türkiye Office が主催した「トルコにおけるバスク企業：市場体験と協力の機会」と題した円卓会議では、トルコで事業を展開するバスクの企業が一堂に会し、直接の体験を共有するとともに、同国のダイナミックな投資エコシステムの概要や、新たな提携の道筋について理解を深めました。

会議において、投資・財務局ユニットマネージャーのムスタファ・エルドンメズ氏ならびにプロジェクトマネージャーのアイシェ・チェリ氏がプレゼンテーションを行い、世界の結節点としてのトルコの投資価値提案について見解を共有しました。



## トルコ、2025 年トルコ物流サミットにおいて戦略的接続性を推進

トルコ物流サミット 2025 は、トルコフォワーディング・物流協会（UTİKAD）が主催し、投資・財務局が戦略的機関パートナーとして参画し、物流およびサプライチェーン・エコシステム全体から集まった上級関係者の方々が、デジタル変革、持続可能な輸送、グローバルな接続性の動向について議論する場となりました。

サミットにおいて、投資・財務局プロジェクトマネージャーのメフメット・ヤヴズ・ギュンギョル氏は、「インターモーダル輸送：鉄道と中東回廊の戦略的役割」と題するパネルディスカッションに参加し、トルコが鉄道、海上輸送、港湾インフラを横断する複合輸送ネットワークを拡大している点を強調し、中東回廊における同国の戦略的立場を改めて確認しました。

トルコは、その強靱な経済と意欲的なインフラ投資により、物流の要衝としての地位をさらに強化し続けております。投資家の信頼感の高まり、官民連携の強化、主要な複合輸送回廊プロジェクトに支えられ、トルコは国際貿易ルートと次世代サプライチェーンにおいて、シームレスな接続性と持続可能な成長を推進しています。



### トルコとアゼルバイジャン、ユーラシア若手ビジネスフォーラムで新たな投資の道筋を探る

投資・財務局ユニットマネージャーのカアン・マサッチュ氏は、投資・財務局、アゼルバイジャン共和国中小企業開発庁（KOBIA）、アゼルバイジャン起業家連合会の後援により、若手独立産業家・実業家協会（Genç MÜSİAD）がバクーで開催したユーラシア若手ビジネスフォーラムにパネリストとして参加しました。

マサッチュ氏は「ユーラシアにおける投資、起業、イノベーション」と題されたパネルディスカッションにおいて、トルコの堅調な投資環境、活気あるスタートアップ・エコシステム、各セクターの成長可能性、マクロ経済指標を強調し、トルコとアゼルバイジャン間の潜在的な協力機会について言及しました。

ユーラシア地域における若手ビジネスパーソンの初めての集いとして、本フォーラムはグローバル化する世界における新たな概念を探求し、地域の未来を導くための意識啓発を促進することを目的としています。



### トルコ共和国、レール＆ポートフォーラム 2025 において中東回廊の接続性を推進

レール＆ポートフォーラム 2025：中東回廊開発会議は、RDL グループが主催し、レールポートとの協働により開催され、22 カ国から 150 名を超える参加者を集めました。本会議は、地域物流と交通接続性の未来を形作る主要な関係者を結集する場となりました。

投資・財務局プロジェクトマネージャーのメフメット・ヤヴズ・ギュンギョル氏は、「アジア・ヨーロッパ輸送の未来とトルコの発展における役割」と題するパネルディスカッションに参加し、トルコの PPP 主導型インフラ戦略、中東回廊における戦略的位置付け、効率的で持続可能なユーラシア輸送ルートの推進における役割について見解を述べました。

トルコは、東西貿易軸における中核的な拠点としての地位を強化し続けており、中東回廊における戦略的な結節点としての役割を果たしております。トルコは、堅調な輸送投資、拡大する複合輸送能力、そしてグローバルな物流事業者との強固な連携により、大陸を越えたシームレスな接続性と持続可能なインフラ開発を推進しています。



## トルコ共和国、アムステルダム・ロードショーにて再生可能エネルギーの機会を推進

投資・財務局は、トルコの再生可能エネルギー投資機会を促進するため、アムステルダムにてロードショーを実施しました。

プロジェクトマネージャーのラウフ・フラト・ヤシャール氏、専門家のレヴェント・フルカン・チェリク氏、ならびに国別アドバイザーのエテム・トコズル氏からなる代表団は、欧州を代表する主要な再生可能エネルギーの買い手と売り手を結ぶプラットフォームの一つである「RE-Source 2025：再生可能エネルギーの買い手と売り手を結びつける」に出席しました。本イベント期間中、代表団は欧州の主要エネルギー企業各社の代表者と数多くの二国間会談を行いました。

本イベントにおいて、ラウフ・フラト・ヤシャール氏は「PPA と国が支援する再生可能エネルギープロジェクトの連携」セッションにパネリストとして登壇し、トルコの再生可能エネルギー分野における進展、電力購入契約（PPA）の役割、欧州のエネルギー企業向けの潜在的な投資機会について議論しました。特にトルコが持続可能性の要となる位置付けにある点を強調しました。

プログラムの一環として、代表団は主要なオランダの金融機関、エネルギー基金、および関連団体の本部を訪問し、協力に関する意見交換を行い、再生可能エネルギーおよび再生可能エネルギー機器製造分野における新たな機会を探求しました。



## 投資・財務局が、2025 年 EEL イベントフォーラムにてインフラ構想を発表しました

イスタンブールにて開催された「トルコインフラ・エネルギーフォーラム 2025」では、投資・財務局の共催および EEL イベントの運営のもと、官民のリーダーが集結し、トルコの進化するインフラとエネルギーの展望について議論を交わしました。

「インフラおよび PPP セクターからの主要な知見」と題したパネルディスカッションにおいて、投資・財務局プロジェクトマネージャーのメフメット・ヤヴズ・ギュンギョル氏は、トルコの強固な PPP エコシステムについて言及し、その戦略的な立地、回復力のある経済、そして充実したプロジェクトパイプラインを強調しました。

トルコは、成熟した官民連携（PPP）の枠組みと、交通・物流・インフラ開発分野における持続可能な成長と革新を推進する長期的なビジョンにより、地域における投資拠点としての地位を強化し続けております。



## トルコ共和国は、英国・トルコ鉄道フォーラム 2025 において、鉄道産業のビジョンを発表しました

英国・トルコ鉄道フォーラム 2025 がアンカラにて開催され、両国の鉄道分野における主要関係者が一堂に会し、接続性、産業能力、長期的な分野の発展に関する協力の深化を図りました。

フォーラムにおいて、投資・財務局の専門家であるオズカン・オズカルデス氏が「トルコ：鉄道業界における皆様のパートナー」と題したプレゼンテーションを行いました。トルコ共和国は強固な経済基盤と鉄道変革に向けた長期的なビジョンを有しており、同国の確固たる産業基盤、活発な鉄道クラスター、そして PPP（官民連携）や EPCF（設計・調達・建設・運営）モデルを支援する投資家に優しい環境が、国際ビジネスコミュニティにとって意義あるパートナーシップの機会を創出していることを強調しました。

トルコは、その強固な産業基盤、拡大する投資機会、そして革新と持続可能性への確固たる取り組みを活かし、鉄道ネットワークの要としての役割を強化し続けています。これにより、国境を越えた円滑な協力と次世代の輸送ソリューションを推進してまいります。



### トルコとジェノヴァ、ビジネスとイノベーションの連携を強化

投資・財務局とジェノヴァ産業連盟が共催する「トルコとジェノヴァ：ビジネスと文化の歴史的絆」と題したイベントでは、イタリアとトルコのビジネスリーダー及び業界関係者が一堂に会し、新たな協力と投資の機会について議論を深めました。

ハイブリッド形式（対面とオンラインの両方）で開催された本イベントには、41名の企業関係者が集結し、ジェノヴァ産業連盟国際担当会長マルコ・トッフォルッティ氏ならびにミラノ駐在トルコ共和国商務担当官カディル・エセル氏による開会の挨拶が行われました。

本イベントの一環として、投資・財務局カントリーアドバイザーのジーノ・コスタ氏が「トルコの経済・産業の現状：外国投資の数値、動向、および潜在的可能性」と題したプレゼンテーションを行い、情報通信技術（ICT）、グリーン経済、自動車、物流の各分野における投資機会に焦点を当てました。一方、投資・財務局の専門家であるビラル・シャミル・オカン氏は、「トルコのイノベーション・エコシステム」と題したプレゼンテーションを行い、同国の活気ある起業環境と、イノベーションの結節点としてのトルコの特異な役割を強調しました。



## スペインとトルコ、イノベーションと人工知能（AI）分野における戦略的協力を推進

スペインとトルコの両国間の強固な二国間関係は、マドリード商工会議所主催の「イノベーションと人工知能：デジタル時代における成長と機会の原動力」と題されたイベントにおいて、より深い戦略的協力へと発展しました。マドリードでの会合では、政府機関および産業界の代表者が一堂に会し、両国がイノベーション・エコシステムをいかに連携させ、AIを駆動力とした競争力を強化し、デジタル変革を支える規制および投資の枠組みをいかに構築するかについて議論しました。

議論では、テクノロジー企業間の緊密な連携の重要性、国境を越えたスタートアップ間の交流の強化が強調され、データ駆動型の経済成長に向けた強固な基盤が築かれました。

投資・財務局は、カントリーアドバイザーのヤセメン・コルクチュ氏を代表として、トルコがグローバルなデジタル環境において経済の機会拡大と戦略的価値向上を目指す、投資主導の技術開発を促進するとの確固たる姿勢を改めて表明しました。



### ユーロ・地中海フォーラム、地域投資協力におけるトルコの役割を強調

投資・財務局は、バルセロナ商工会議所および欧州地中海研究所（IEMED）が主催する「ユーロ・地中海経済・ビジネスフォーラム 2025」に参加しました。

投資・財務局アナリスト、アナス・マクマルジ・コガ氏が「投資政策と税制優遇措置：地中海地域における外国直接投資の誘致」と題したプレゼンテーションを行い、トルコの競争力ある優遇措置の枠組み、高付加価値投資の促進における同国の実績、そして地域協力強化のための政策調整の重要性について概説しました。

本セッションでは、対象を絞ったセクター特化型のインセンティブ戦略、予測可能性と投資家の信頼を高める規制改革、デジタルワンストッププラットフォームによる投資促進サービスが、当該地域における外国直接投資（FDI）の実績をいかに強化し得るかについて議論されました。

地中海地域全体における成功事例と残された構造的課題に加え、ニアショアリングの動向、サプライチェーンの多様化、グリーン移行、そして同地域のより広範な産業変革によってもたらされる新たな機会についても議論が交わされました。

トルコは、地中海地域全体において、外国直接投資（FDI）の活発で競争力のある拠点であり続けています。



### ミラノ・ボッコーニ会議にてトルコのスタートアップと投資環境が紹介されました

ボッコーニ大学とミラノ大学のトルコ人学生協会が主催したスタートアップ・コンベンションには、約 80 名の参加者が集まりました。本イベントは若手起業家の方々に、トルコの投資環境とスタートアップ・エコシステムを直接体験する機会を提供しました。

投資・財務局の国別アドバイザーであるジーノ・コスタ氏とアルフレド・ノチェラ氏は、トルコが将来の展望と革新者を結ぶ投資の要衝として有する独自の立場を強調するプレゼンテーションを行いました。また、トルコの活気ある起業環境を紹介し、起業家、創業者、投資家の皆様に向けた機会に関する知見を共有しました。



### トルコ・英国セミナーが二国間のビジネス協力を強化

DEİK（対外経済関係委員会）のトルコ・英国ビジネス協議会および英国経営者協会（IoD）国際貿易グループが主催する「トルコ・英国ビジネス協力およびネットワーキングセミナー」は、トルコと英国のビジネスコミュニティ間の経済協力の強化を目的としております。

イスタンブールで開催された本イベントは、新たな投資機会の模索、トルコの投資環境に関する相互理解の深化、ならびに両国間の商業関係の促進に焦点を当てたものでした。本プログラムでは、上級代表者によるご挨拶、トルコの投資環境に関するプレゼンテーション、ならびに対話とパートナーシップの構築を目的としたネットワーキングセッションが行われました。

セミナーの一環として、投資・財務局アナリストのアナス・マクマルジ・ホガ氏がプレゼンテーションを行い、トルコの多様な産業分野と、今日のダイナミックなグローバル環境における投資の要としての戦略的ポジションについて説明しました。

## トルコを選ぶ理由

### トルコ：イノベーションと成長のためのハブ

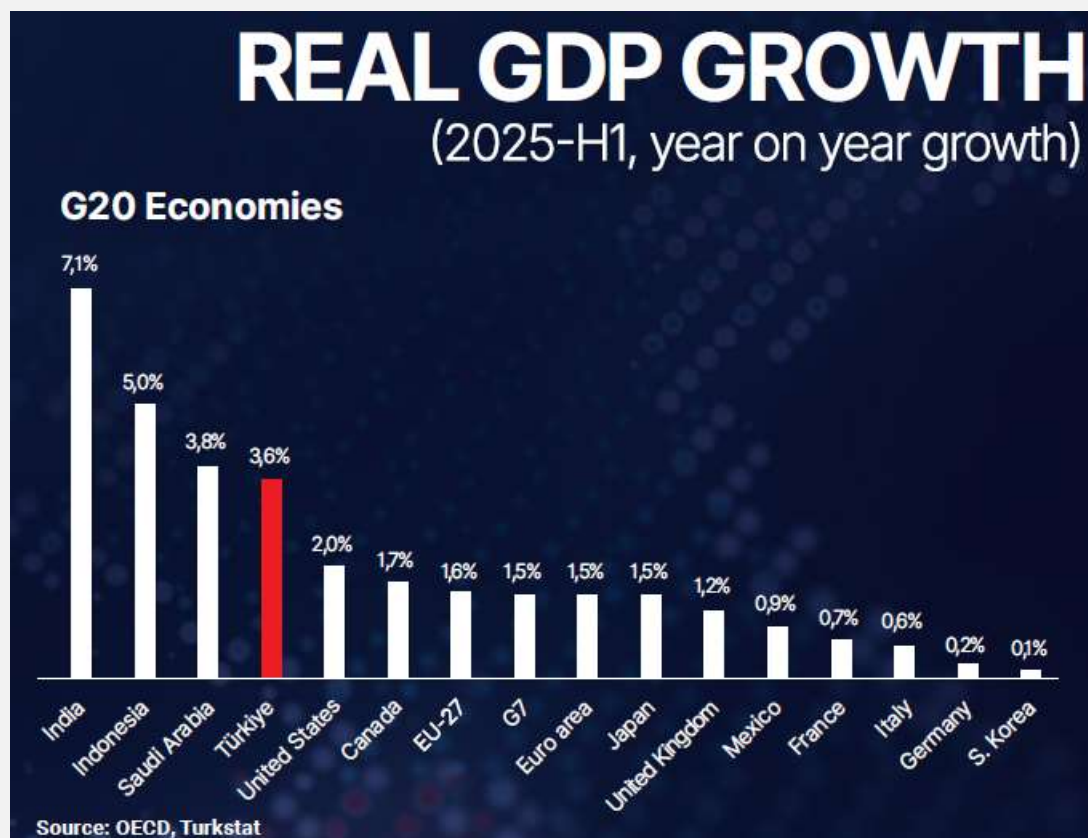
4 時間のフライト圏内で、GDP32.1 兆ドル、貿易 10.3 兆ドル、人口 13 億人の複数市場に容易にアクセス可能。

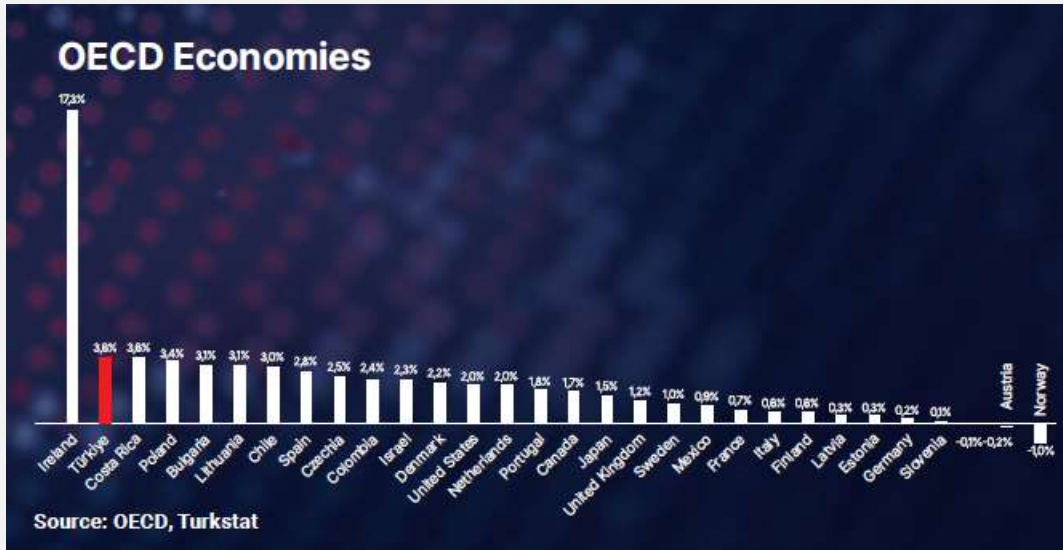
2024 年に 1 兆 3,580 億ドルに達した急成長する経済（2002 年の 2,380 億ドルから）。

2003～2024 年の FDI は 2,730 億ドル以上（1980～2002 年の FDI 総額は 150 億ドル）。

### 複数市場へのアクセス

| 地域    | GDP      | 輸入        | 人口      |
|-------|----------|-----------|---------|
| ユーラシア | 2.8 兆ドル  | 4,670 億ドル | 2.44 億人 |
| MENA  | 4.4 兆ドル  | 1.5 兆ドル   | 4.72 億人 |
| ヨーロッパ | 24.9 兆ドル | 8.3 兆ドル   | 5.95 億人 |
| 合計    | 32.1 兆ドル | 10.3 兆ドル  | 13 億人   |





トルコは 2003～2024 年の期間、OECD 加盟国の中で最も急成長した経済であり、平均年間成長率は **5.3%**

#### トルコへの累積 FDI 流入

- 2003～2022 年平均：124 億ドル/年
- 2003～2024 年累計：2,730 億ドル

## ハイライト

ヨーロッパで最も急成長し、世界でも最も急成長する経済の一つ 過去 21 年間（2003～2024 年）の平均年間 GDP 成長率 5.3%

#### 洗練された消費者基盤

- 人口 8,570 万人、その半数が 34.4 歳以下
- 9,640 万人の固定・モバイルブロードバンドインターネット加入者
- EU と比較して最大の若年人口

#### 熟練し献身的な労働力

- 208 大学から毎年約 96 万人の学生が卒業
- 約 3,600 万人の若く、教育を受けた、意欲的なプロフェッショナル

#### トルコのインフラ開発

- 2,150 億ドル：1986～2024 年の PPP 契約総額

- 272 件：1986～2024 年に完了した PPP プロジェクト総数
- 27,797 床：PPP プロジェクトによる病院ベッド総数（18 の医療キャンパスが完成）
- 58 空港：2002 年の 26 から 2024 年には 58 に増加

## 私たちについて

投資・財務局は、トルコの投資環境整備を促進し、投資家に支援を提供する公式機関です。トルコ共和国大統領に直接報告します。

## 支援方法

- 多言語対応（トルコ語、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、アラビア語、スペイン語、中国語、日本語、韓国語）
- ワンストップショップアプローチ
- 結果志向
- 完全な機密性を持つ民間セクターアプローチ
- ハイテク、高付加価値、雇用創出型投資に焦点
- 

## 活動内容

- 投資家への投資機会の提示と投資の全段階での支援
- 国際投資家のレファレンスポイントとして、国・地域・地方レベルで投資促進・誘致に携わるすべての機関との連絡窓口
- 市場情報・分析、サイト選定、B2B ミーティング、関連政府機関との調整、事業設立・インセンティブ申請・ライセンス・労働許可取得などの法的手続き・申請の円滑化を含む無料サービスの提供

**グローバル拠点** 米国、ドイツ、イタリア、スペイン、オランダ、トルコ、サウジアラビア、UAE、カタール、中国、韓国、日本、英国、シンガポール、マレーシア

**セクター** 農食品、自動車、化学、防衛・航空宇宙、エネルギー、金融投資・スタートアップ、ICT、インフラ、ライフサイエンス、機械、ビジネスサービス、金融サービス、鉱業・金属、不動産、観光